

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和03年07月21日

計画の名称	折尾駅周辺地区における連続立体交差事業の推進による活力あるまちづくり												
計画の期間	平成26年度～平成30年度(5年間)										重点配分対象の該当	○	
交付対象	北九州市												
計画の目標	鉄道連続立体交差事業により交通結節点機能を強化することで、北九州市の西部地域の都市拠点として活力あるまちづくりを支援する。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	17,986	A	17,859	B	0	C	127	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0.7	%

計画の成果目標(定量的指標)				
番号	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H26当初	H28末	H30末
1	交通渋滞の解消及び交通結節機能の強化、さらには、北九州市の西部地域の都市拠点として魅力あるまちづくりに向け、区画整理事業と並行しながら、鉄道の連続立体交差化、街路事業の4車線化及び北口駅前広場の整備を一体的にすることで、快適かつ利便性の高い市民生活を確保することが期待される。 H31年度末、筑豊本線高架化完了により初めて効果が発現することから、H34年度末の完成に向けた事業の進捗率 事業進捗率 = { (Σ年度別事業費) / (全体事業費) }	41%	60%	75%
2	交通渋滞の解消及び交通結節機能の強化、さらには、北九州市の西部地域の都市拠点として魅力あるまちづくりに向け、区画整理事業と並行しながら、鉄道の連続立体交差化、街路事業の4車線化及び北口駅前広場の整備を一体的にすることで、快適かつ利便性の高い市民生活を確保することが期待される。 筑豊本線高架化に伴う踏切除去(H32年度)で、一日あたりの踏切自動車・歩行者交通遮断量が削減される割合 削減率 = { 1 - (事業後踏切自動車・歩行者交通量) / (現況踏切自動車・歩行者交通量) }	0%	0%	68%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	○	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H26	H27	H28	H29	H30				
		一体的に実施することにより期待される効果 備考																		
道路事業	A01-001	街路	一般	北九州市	直接	北九州市	S街路	改築	折尾駅周辺（JR筑豊本線・鹿児島本線）	鉄道連続立体交差 4.5km	北九州市	■	■	■	■		17,859	—		
											小計						17,859			
											合計						17,859			

C 効果促進事業																			
基幹事業（大）	番号	事業	地域	交付	直接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		種別	種別	対象	間接							H26	H27	H28	H29	H30			
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	C01-001	街路	一般	北九州市	直接	北九州市	—	—	ホーム上屋等景観整備事業	ホーム上屋 約3,100㎡ 防風スクリーン 約340m	北九州市			■			127	—	
		道路改築事業と一体となって実施することにより、快適かつ利便性の高い市民生活へ寄与することができる																	
											小計						127		
											合計						127		

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
【実施体制】 北九州市建築都市局折尾総合整備事務所事業調整課が事後評価を実施 【評価値の確認方法】 学識経験者に意見聴取を実施 (九州共立大学経済学部成富教授、九州工業大学工学部寺町准教授)	令和3年度
	公表の方法 北九州市ホームページに掲載

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	当初平成31年度末としていた筑豊本線高架完了を平成30年度末とすることができるなど、着実に事業進捗している。 また、平成32年度としていた踏切除去を筑豊本線の鉄道高架完了に合わせ実施することにより、踏切自動車・歩行者交通遮断量の削減も前倒して実施することができた。 特に筑豊本線上に存在した国道199号の国道踏切を除去した効果が大きく、駅前の渋滞解消に大きく寄与している。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	旧折尾駅は、北部九州有数の学園都市の玄関口であり、JR九州管内で有数の乗降客数（H30 九州第5位）を誇る駅でありながら、エレベーター等がなく、障害者や高齢者等の駅内の移動に支障をきたしていた。 本事業により、エレベーターやエスカレーター等の整備を行うことで、障害者や高齢者等の移動円滑化が進んでおり、平成30年度末に筑豊本線のホームに、また令和3年1月には鹿児島本線のホームにおいて、エレベーター、エスカレーター等の整備が完了した。

○特記事項（今後の方針等）

折尾駅周辺における連続立体交差事業は着実に進捗しており、平成30年度末に筑豊本線が高架化完了するとともに、9つの除却踏切のうち、3つの踏切を除去することができた。  
特に、国道199号の国道踏切除去の効果が大きく、踏切によって発生していた自動車・歩行者の交通遮断が改善され、駅前の交通環境が大幅に改善したことで、予定通り、令和3年1月に鹿児島本線の高架本切替を実施するとともに、折尾駅新駅舎を開業することができたことから、残すところ、短絡線の高架化のみとなり、連続立体交差事業の完了が近づきつつある。  
また、学識経験者の意見聴取を実施する中で、「事後評価の内容は妥当である、今後も地域との関係を維持しながら着実に事業を進捗させていただきたい」との意見をいただいた。  
なお、社会資本総合整備計画の目標に掲げている「交通渋滞の解消及び交通結節機能の強化、さらには、北九州市の西部地域の拠点として魅力あるまちづくり」の達成には、駅周辺で実施している区画整理事業、街路事業の事業進捗も重要となる。  
連続立体交差事業の事業進捗が区画整理事業、街路事業の事業進捗に影響を与えるため、今後も令和4年度の連続立体交差事業の事業完了に向けて、個別補助事業により、事業を着実に進捗させていきたい。

○目標値の達成状況

番号	指標（略称）		目標値と実績値に差が出た要因
	目標値／実績値		
1	事業進捗率		
	最終目標値	75%	国の重点配分の影響により、事業進捗率が当初目標を上回る結果となった。なお、今回の事業進捗率は平成30年度に移行した13 折尾駅周辺地区における連続立体交差事業の推進による活力あるまちづくり（交通拠点連携集中支援）による平成30年度実績を踏まえたもの。※平成29年度に事業費の見直しを行っており、約315億円であった全体事業費（整備計画期間外含む）を約440億円へ変更。見直し前の全体事業費で進捗率を試算すると107%となる。
	最終実績値	76%	
2	削除率		
	最終目標値	68%	国の重点配分の影響により、当初平成32年度末としていた筑豊本線の高架化完了による踏切除却が平成30年度末に前倒して行うことが可能となったため当初目標を上回る結果となった。
	最終実績値	68%	

(様式第8)

# 社会資本総合整備計画 参考図面

計画の名称	4 折尾駅周辺地区における連続立体交差事業の推進による活力あるまちづくり	
計画の期間	平成26年度～平成30年度(5年間)	交付団体 北九州市

